

1

「確かな学力」の育成

第3期プラン 1-(1)-ア

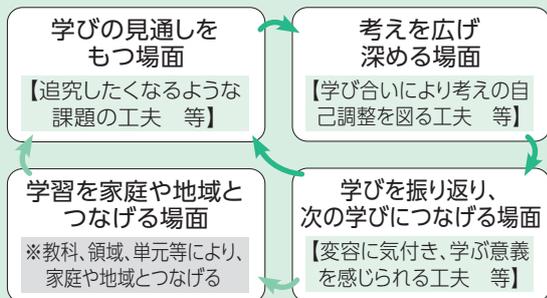
児童生徒に基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、確かな学力を身に付けさせる。なお、思考力、判断力、表現力等の育成にあたっては、「ことばの力(言語に関する能力)」を高める活動の充実を図る。

令和4年度 重点実践事項

- 児童生徒のつまずきの解消や系統性を重視した指導の充実
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の促進

「学びに向かう力」の育成に向けて

「学びに向かう力」の育成に向けては、児童生徒が学習の目標や教材について理解し、計画を立て、見通しをもって学習し、その過程や達成状況を評価して次につなげるなど、学習の進め方を自ら調整していくことができるよう、教員が、発達段階に配慮しながら指導することが大切です。



【学習過程イメージ】

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

◆主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学び

◆対話的な学び

子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める学び

◆深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連づけてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学び

ひょうご子どもの読書活動推進計画(第4次)(R2~R5)

県が、子どもの読書活動を推進するために策定した、基本的な計画。市町が「子どもの読書活動推進に関する計画」を策定及び改訂する際の基本となるもの。

【基本方針】

本への関心を高め、読書習慣の定着を図る
～読書を通じて豊かな心を育む～

【取組の方向性】

- 子どもの発達段階に応じた“本”に出会い、触れる機会の充実
- 子どもの読書活動を支える人材育成及び環境整備
- 新しい時代への対応
 - ・ICT技術の進展や出版形態の多様化に伴う読書環境の変化への対応
 - ・子どもが集まる図書館への移行の促進、ICT環境への対応

実践目標

1

学習指導要領等に基づき、教育課程を編成し、創意工夫した学習活動を行う

①カリキュラム・マネジメントの実現 小中高特

児童生徒の実態や地域の実情等を踏まえ、各学校が設定する学校教育目標を実現するため、教科等横断的な視点で、教育内容を組織的に配列する。その際、教育課程を編成・実施・評価を通して改善を図る一連のPDCAサイクルを意識する。



重点! ②指導計画の作成と評価の工夫 小中高特

系統的・発展的な指導を行うため、各教科等や学年相互の関連を踏まえた指導計画を作成する。また、指導目標に則した評価規準を踏まえ、評価場面や評価方法を明確にするとともに、指導方法の工夫・改善を行い、児童生徒が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるよう取り組む。

③校種間連携の促進 小中高特

校種間の円滑な接続を図るため、共通する課題への取組や授業研究による指導の系統性の確保等、緊密な連携を図る。特に、小・中学校においては、9年間を見通した効果的な指導を行うため、児童生徒や教職員の交流、教育課程の編成等について工夫を図る。

④外部人材を活用した学力向上の取組 小中高特

学力向上の取組を促進するため、授業中や放課後、休業日の学習支援の場で保護者や地域の人々など外部人材と連携・協力を進める。

関係資料

※関係資料一覧より一部抜粋
※一覧はP67のQRコードから閲覧可

- 令和3年度全国学力・学習状況調査の課題を踏まえた学習指導等の改善・充実のポイント (R3 県教委)
- きめ細かな見取りから確かな学力を育む指導改善へ (R3 県教委)
- 「活用・表現力」を高めるための授業改善リーフレット (R3 県教委)
- すべての子ども達の可能性を引き出す「兵庫型学習システム」の推進 (R3 県教委)
- 令和2年度小・中学校における新型コロナウイルス感染症の影響に関する調査結果を踏まえた学習指導等の改善・充実のポイント (R2 県教委)
- 令和元・2年度読書活動推進事業実践事例のまとめ (R2 県教委)
- ひょうご子どもの読書活動推進計画(第4次) (R1 県教委)

実践目標

2

小・中学校における
学習指導を充実する

①学力の把握に基づくきめ細かな指導 小中

全国学力・学習状況調査の結果等により、自校の児童生徒の生活実態や学習状況等を適切に把握・分析し、課題の改善に向け組織的に取り組む。その際、習熟の程度に応じた指導や補充的・発展的な学習を取り入れるなど、指導方法を工夫する。



重点! ②児童生徒のつまずきの解消や系統性を重視した指導 小中

「ひょうごつまずきポイント指導事例集」や専用Webサイトに掲載した補助資料等を活用し、児童生徒のつまずきの解消を図るとともに、学年間・校種間の学習の系統性を重視した指導方法を工夫する。

③学習習慣や知識・技能の定着 小中

学習習慣や基礎的・基本的な知識・技能の着実な定着を図るため、繰り返し学習等の指導方法の工夫や、学習タイムの充実、家庭での学習課題の適切な設定、家庭学習の手引きの活用等を行う。



重点! ④授業改善の促進 小中

校内研修等を通して、授業の中で目標(めあて・ねらい)を児童生徒と共有したり、自らの学びを実感できる振り返りを行うなど、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、児童生徒の課題に対応した授業改善を進める。さらに、タブレット端末をはじめICT機器をこれまでの実践と組み合わせ、発達段階に応じて効果的に活用した授業づくりに取り組む。

⑤各教科等における言語活動の推進 小中

児童生徒の思考力、判断力、表現力等を把握・育成するため、「ことばの力」の向上を図る活動の在り方について教職員間で共通理解する。その上で、各教科等において、「記録」「要約」「説明」「論述」等の言語活動を充実させ、言語で表現された内容を正確に理解し、適切に表現する言語能力を育成する。

⑥読書活動の推進 小中

「ひょうご子どもの読書活動推進計画(第4次)」に基づき、探究心や真理を求める態度、思考力、判断力、表現力等、豊かな感性を育むため、図書に触れる機会の確保とともに、教科等の学習との連携を図る。また、学校図書館の計画的な利用、司書教諭等の活用、家庭、地域、公立図書館等との連携を図り、読書を通じて学ぶ楽しさや知る喜びを体得させるなど、児童生徒の自主的・自発的な読書活動につなげる。

実践目標

3

高等学校における
学習指導を充実する

①きめ細かな指導 高

知識・技能の定着を図るため、生徒の生活実態や学習状況等を把握し、少人数指導や習熟の程度に応じた指導を行う。また、補充的・発展的な学習を取り入れるなど指導方法を工夫し、主体的に学習に取り組む態度を養う。

②生徒の実態等に応じた学習内容の工夫 高

生徒の能力・適性や興味・関心、進路希望、地域の実態、社会の変化等を踏まえ、選択科目の充実を図る。また、「高校生のための学びの基礎診断」等を活用し指導の充実・工夫を行う。



重点! ③学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善 高

「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の育成のバランスを重視し、計画的な研究授業や研究協議を実施する。また、指導目標に基づき、観点別学習状況の評価を行い、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組む。併せてタブレット端末をはじめICT機器の活用や、探究活動を取り入れた授業の工夫を行う。

④各教科等における言語活動の充実 高

学習の基盤となる言語能力を育成するため、必要な言語環境を整え、各教科・科目の特質に応じた生徒の言語活動を充実する。併せて、生徒の学びの質の向上を図るため、生徒の自主的・自発的な学習活動や読書活動を推進するとともに、探究活動に取り組む。

⑤兵庫型STEAM教育の推進 高

変化の激しい社会において、新しい価値を創造し、実社会における課題解決への道を切り拓く力を育成するため、文系・理系といった既存の領域にとらわれず、芸術を含む様々な学びを融合し、ICTやIoT等を活用した課題研究等に取り組む。

※兵庫型STEAM教育…「STEAM教育」とは、Science(科学) Technology(技術)、Engineering(工学)、Art(芸術/文系)、Math(数学)の異なる分野を総合的に学習し、文理を横断した複眼的視野により創造力や課題解決能力を高める教育。兵庫型は、English(英語)にも重点をおく。

改訂に伴う観点別評価の変更 -4観点から3観点へ-

学習指導要領の目標及び内容が資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、各教科における観点別学習状況の評価の観点については、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理されています。

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育み、「主体的に学習に取り組む態度」を養うことが求められています。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、以下の側面が相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられています。

- ①粘り強い取組を行おうとする側面
- ②自らの学習を調整しようとする側面

【「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ】

